

活動テーマ

「私たちの未来に つながる今を知ろう！」

実践事例について

愛北小の子どもたちは、身の周りの豊かな自然や環境を守る活動をしている地域の人たちや福祉施設とつながって体験活動や学習をしている。自分の生活をふり返り、家庭でも実践できる活動へと取組を広げている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿山脈の西側に位置する田畑や果樹園の広がる農村地帯にある。校区には「湖東三山」の一つとして知られる「百済寺」があり、深い歴史と豊かな自然に囲まれた学校である。

地域の産業は兼業農家が多く、水稲とともに、地形や気候を生かした、ぶどうや梨等の果樹栽培が盛んに行われている。本校児童も実際に梨園に行き、その栽培の一端を体験させてもらっている。

また、「菜の花エコプロジェクト」の発祥の地として全国的にも有名であり、環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る「環境こだわり農業」などの推進に力を注がれている。現在では、あいとうエコプラザ「菜の花館」を拠点として、資源循環型社会をめざすの地域づくりが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 校外清掃活動の取組

5月24日に全校で「はとのこ遠足」に出かけた。行先は、自然豊かな水鳥公園である恵美須溜である。恵美須溜は、農業用水溜や水鳥の生息地として知られている。子どもたちは班ごとに溜を周回しながら、ごみ拾いやネイチャーゲームで、自然に親しむとともに、環境美化に取り組んだ。



また、11月20日学習発表会の参観後には、「PTA親子クリーン作戦」を行った。

親子で一緒に下校しながら、道に落ちているごみを拾う。通学路周辺には、ごみも少なく、地域全体で環境に高い関心があることが伺えた。

(2) 学年の主な活動

ア 5年 びわ湖環境、たんぼのこ体験学習

地域の大きな水田を借り、「たんぼのこ体験学習」に取り組んでいる。春の水田の観察を通して、各自がテーマを決め、そのテーマについて調べた。田んぼでの観察や体験とともに、ボランティアの方の話をまとめ、学習発表会にてその成果を発表した。



また、フローティングスクールの事後学習として、出前授業にて琵琶湖の水質汚染や外来種による環境の変化を考える学習を行った。地球温暖化などを自分たちの生活に身近なびわ湖に関連づけて学習することで、自分たちの生活にもどんどん影響が出ていることを学んだ。

イ 4年 梨の栽培、観察



総合的な学習の時間で「梨について調べよう」の学習に取り組んだ。愛東地区は梨の産地として有名であり、「ぜひ地域のよさを知ってほしい」という思いから、地域の梨園にて児童用に梨の木を借り受けている。春には花や実の観察、夏から秋にかけては摘果や収穫などの作業を行い、そのたびに梨農家さんから様々な自然環境との関係を聞くことができた。また、その成果をプレゼンテーションにまとめて発表し、自然と共に生きることの難しさや大切さを他学年の児童や地域の方に伝えた。

ウ 3年 びわ湖池の活動

平成7年に新校舎建築時に移設、平成28年ビオトープとして再整備された機会に、当時の全校児童が絶滅危惧種であるカ



ワバタモロコを放流した。以来、水草を植栽して、カワバタモロコが産卵しやすい環境を作り出すなど、3年生を中心に環境学習と保全活動を継続して取り組んでいる。

活動のゲストティーチャーとして、環境省の鈴木先生に来ていただき、カワバタモロコの生態や生育環境について教えていただいた。年々、アメリカザリガニやメダカが増え、カワバタモロコの生育環境が脅かされていることを聞き、児童が池に入って採取したり、仕掛けや釣竿を作ったりして駆除を試みた。活動を通して「自分たちだけで採っていてもキリがない」ということを実感し、地球環境についての問題の複雑さに気づいた。そのことを学習発表会にて報告し、外来種について問題提起をすることができた。

(3) 環境委員会の取組

環境委員会では、全校にエコ意識を高めてもらえるように、呼びかけをしている。

その一つが、エコキャップの回収であり、各教室や昇降口に専用の回収箱を設置し、ペットボトルのキャップを集めている。

回収したキャップは、プラスチック資源に再利用するため、福祉施設「あいとう和楽」に寄付している。

また昨年度から新たに「愛北希望のまんまる花だん」の取組を行っている。整備されず放置されていた花壇を利用して、地域の



方々の協力を得ながら花を植えた。花壇はその季節に合わせた花が植えられており、環境委員会所属の児童が管理している。花を育てたり管理したりすることで、植物に対する愛着が湧き、環境保全の意識を高めることに繋がっている。

3 成果と課題

ほとんどの活動が長年継続されてきているため、今までの活動を知る児童にとっては、4月から見通しをもって活動を進めていくことができた。

また、地域の方に快く協力していただいているため、学校内での活動にとどまらず、地域全体として環境保全などに取り組むことができた。

ただし、例年どおりという活動内容も多く、これからさらに深刻になるであろう環境問題について主体的に考えることが十分にできていない。

児童がより身近に環境問題について考えるよう、地域と継続的に連携しながら活動や学習をよりよいものにするを意識して取り組んでいきたい。

学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp